

いざというときの  
ために...

# 地震に備え防災対策を



阪神・淡路大震災では大きな被害が

平成七年一月十七日に発生した阪神・淡路大震災。多くの犠牲者と多大な被害をもたらしました。それから八年がたち、あの大事事が、皆さんの記憶から薄れかけていませんか。いざというときに慌てないためにも、日ごろからしっかりと防災対策をしましょう。

昨年、東海地震の震源域が見直され、地震防災対策強化地域に指定された市町村は、二百六十三に増えました。本市はこの

地域に含まれていませんが、地震が起きても安全」というわけではありません。

一月十七日は阪神・淡路大震災にちなみ「防災とボランティアの日」。あの大事事の教訓を生かすために、この機会に一人ひとりが防災の心構えをし、家庭での防災対策について話し合いましょ。

## 安心のための5つのポイント

建物の安全性を過信しない  
家の中を総点検 家族で防災会議 地域の人々との交流を大切に わが町をよく知っておく。

## 非常用持ち出し品を用意

災害発生後には、直ちに避難しなければならぬ場合も。そんなとき、最低限必要な持ち出し品は、次のとおりです。すぐ持ち出せるように常備しておきましょう。

携帯ラジオ 予備の電池も忘れずに 照明器具 懐中電灯 ろうそく ヘルメット 防災ずきんも可 非常用食糧 少なくとも三日分(水は一日三が目安) 生活用品 ライター(マッチ)、軍手、紙皿、紙コップ、ラップ、ナイフ、缶切り、スプーン、ティッシュ 衣料 丈夫で動きやすい服装、下着、靴下、ハンカチ、タオルなど 救急用

品・常備薬 ばんそうこう、ガーゼ、包帯、三角きん、体温計、消毒薬、解熱剤、胃腸薬、風邪薬、鎮痛剤、目薬、マスク、とげ抜きなど 通帳など 預貯金通帳、健康保険証、免許証、現金 その他 乳幼児にはほ乳瓶、紙おむつなど。

## 地震から身を守る10カ条

大きな地震が発生したとき、被害を少なくするには、一人ひとりが、慌てずに適切な行動をとることが大切です。日ごろから、地震が起きたときに身を守る心構えをしておきましょう。

まず自分の身を守る 素早く火の始末 非常脱出口を確保する 火が出たらまず消火 外へ逃げるときは慌てずに 狭い路地、塀際、がけや川べりに近寄らない 山崩れ、がけ崩れに注意する 避難は徒歩で、持ち物は最小限にする みんなが協力し合って応急救護 正しい情報をつかみ 余震をおそれない。  
**市防災センターを利用しよう**  
防災センター(朝日町四丁目)は、前橋広域消防本部に併設された防災の体験学習ができる施設です。  
館内では、防災マップ・グッズの展示や消火・煙内避難体験もできます。

問い合わせは生活課

890 6238へ。